



第 36 号
発行 武義高等学校 同窓会
藤田多美 (高21回)

【伝統訓】
梅は霜雪をうまらず
清香を経ておくせず
発すたくましく



同窓会会頭 土本 恭正 (高28回)

同窓会の皆様におかれましては平素より古城会に対しご協力をいただき有難うございます。

さて令和六年の幕開けは大変な災害となりました。元旦早々に能登半島で起きた地震の被害はこの原稿を書いている一月中旬でもいまだに全容が見えず阪神淡路大震災・東日本大震災に次ぐ災害となっております。住むところがなくなるどころか、寒さとの闘いも相まって一刻も早い復旧を願うばかりです。

さて、昨年はコロナで苦しめられた三年間が終わりようやく通常の生活が戻りました。高校生活においてもまだマスクはしているものの普通に通学し勉強し、そして部活動もなんの支障



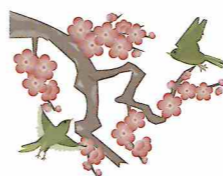
理事会の様子 (於: 武義高校)

もなくできるようになりました。我々同窓生としても武義高校の生徒がいろんな大会で活躍したり、あるいはボランティア活動をしている姿に勇気づけられ元気をもらい、応援するところでもあります。

古城会の活動につきましては特に大きな事業もなく総会を昨年十月に開催しました。講師には美濃で地ビールを製造販売しておられる卒業生の深和氏にお願いしビールに対する思いやその背景にある文化を語ってもら

い、その後の懇親会でも深和氏の作られた地ビールを美味しくいただきながら久しぶりの旧交を温めることが出来ました。また東京古城会は残念ながら昨年開催が見送られましたが、五月には名古屋古城会も開催され、武義高卒業生である眼科医の古田先生に講演していただいたところ、その後に行われた懇親会では次から次へと参加者が先生のもとへ質問に来られ相談されていたことが印象に残るところであります。

最後になりましたが、様々なボランティア活動を通じて地域に根差した活動をしている武義高校の生徒たちを古城会としても全力でバックアップしていきたいと思っております。会員の皆様におかれましては引き続き古城会へのご協力をよろしくお願い申し上げます。



校長 加藤 信男



同窓会の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

武義高校は、あらゆる分野で活躍され、社会の発展に多大な貢献をされている卒業生二万三千人以上を輩出した岐阜県屈指の伝統校です。名実ともに岐阜県を代表する学校であり、我々の誇りです。学校は、学園のような温かな雰囲気がありながらも文武をしっかりと両道するたくましい生徒たちによって、有意義な時間が流れる学びの場となっております。我が国を取り巻く社会環境は、グローバル化、AIの発達や高度なICTにより容赦なく物凄いスピードで変化しております。

令和という時代においても、めまぐるしく変わる国内外の情勢にどのように対応していくかが問われる中、武義高校の校訓「うまず・おくせず・たくましく」がまさに試されていると感じています。

そこで、本校では、武義高校の校訓のもと「生徒の学びの充実」についての具体的な方略を立案し着手いたしました。一つは、本校の懸案であった文武両道の充実に着目した学びのためのカリキュラムについてです。来年度から、生徒の自主性を重んじた文武の選択を可能にするため、単位数の変更を行い週の単位数を一単位分減らします。二つには、地域教育力(地元企業、地元商店、行政、NPO、近隣住民様、卒業生等々)を取り入れた学びについてです。地域の教育力を最大限に生かす地域連携を実施します。例えば、授業の内容がビジネスの最先端で生かされていることを知る「学びとビジネス架け橋プロジェクト」と題した施策や、Mプロジェクト(M:美濃市のM:武義高でM:みんなで考えるM:未来プロジェクト)と題した美濃市役所等と連携した取り組みを今年度から行っています。令和六年度には、美濃市未来創造課(仮)を美濃市役所に立ち上げる計画をしています。将来に渡って地域への愛着を持ち続けられる人材を育成していきたいと考えています。三つには、生徒の「自走性」を育てることです。自ら動き、考え、自己決定することができ、目的を以て人生を歩んでいく自走性を育む教育を校長主導のもと強力

東京古城会の活動

東京古城会 会長 野倉 学 (高22回)

コロナ感染症は令和五年五月にインフルエンザと同じ五類に分類されました。そして人々の生活は徐々にコロナ前と変わらない状況に戻りつつあります。

しかしながら高齢者が多い東京古城会ではコロナに対し慎重な人々が多いと予想され令和五年六月の東京古城会総会では中止と致しました。

そこで総会中止のご案内に際して令和六年度の開催に向けたアンケートを実施しました。その結果を踏まえ令和六年度は開催する計画をしております。開催日は令和六年六月八日(出)の予定です。

六月の総会では中止と致しましたが十一月十八日(出)に会員有志による「懇親会」を新橋の

中華料理店にて開催しました。二十五名の方々が参加され久しぶりに楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

またコロナ禍より始めた幹事有志によるリモートの意見交換会も引き続き定期的に実施しており様々な情報交換をしております。

令和六年度の東京古城会総会は六月八日(出)に四谷の「主婦会館」で開催する予定です。一人でも多くの方々にご参加いただきたくお待ち申し上げます。

名古屋古城会の活動

名古屋古城会会長 山口 啓 三 (高13回)

名古屋古城会は、コロナ禍により延期してきた総会懇親会を、令和五年五月二十一日(日)に名古屋駅近くの名鉄グランドホテルで、会員等総勢五十六名が集い、およそ五年ぶりに開催することができました。

総会では会長のあいさつに続き議事に入り、活動報告等を行いました。そしてご来賓の本校古城会の土本恭正会頭(高28回)及び加藤信男校長先生からご祝辞を賜りました。その後、記念講演として名古屋



総会の様子 (於: 名鉄GH)

屋市内で眼科医をされている古田寿男医師(高22回)から「高齢者の眼の健康」と題して講演をいただきました。参加した会員からは、目の健康は切実な問題として質問が出るなど好評を博しました。

続いて中島睦男前会長(高2回)の乾杯の発声により懇親会に入り、会員相互の絆を深めたところでもあります。

最後に全員が立ち上がり「校歌」を声高らかに斉唱した後、高校二回生で埼玉県から参加いただいた大野哲夫様の力強い中締めで、二年後の再会を約し懇親会を終了しました。今回の総会について五年余のプランクがあり、果たしてどれだけの会員の方々が参加していただけたのか不安の中での開催でしたが、御年九十一歳の高校二回生

古城会総会報告

古城会事務局 岩井 浩光 (高32回)

令和五年十月七日(出)に、美濃緑風荘にて古城会総会を開催しました。総会に四十八人が参加されました。以下の次第に於いて滞りなく議事が進行されました。

(司会:堀端副会頭) 開会のことば (工藤副会頭) 会頭挨拶 (土本会頭)



校長祝辞 (加藤校長) 来賓挨拶 (武藤美濃市長) 来賓紹介 (佐藤県議会議員) 議事 (事務局 岩井) ①令和四年度会務報告 (議長:土本会頭) ②令和四年度一般会計決算報告 ③令和四年度特別会計決算報告





後の研究の参考になりました。二年生からは植物油の研究に取り組みました。木の実を何時間も茹でたり、滴定実験をしたり、根気の要る研究でしたが、昨年度十一月に開催された県の研究発表会で優秀賞に選ばれ、こつこつと研究に取り組んで本当に良かったと思えました。また、十二月に開催されたA I Tサイエンス大賞では、審査員の方と対面で実験内容を説明するポスターセッションという発表形式を初めて経験しました。そこで、様々な視点からのアドバイスを参考に追実験や、フィールドワークを行いました。三年生になってからは、全国高等学校総合文化祭での発表に向けて、何度も練習をしました。全国高等学校総合文化祭は、全国の科学部が集まるので、質疑応答で難しい質問をされるかもしれないと考え、とても緊張していましたが、校内の先生方から様々な質問やアドバイスを頂き、自信をもって発表できるようにになりました。本番では、

練習のとおり発表することができました。全国高等学校総合文化祭では賞を頂くことができませんでした。全国のハイレベルな研究を知り、他県の高校生と交流できたことで高校三年間の一番の思い出になりました。私は科学部で、こつこつと物事に取り組む力や仲間と協働する力を身につけることができました。他にも、論文の書き方やパワーポイントの使い方など、大学で必要になるスキルを得られ、入部して本当によかったです。

写真部 國光 梨里

卒業を目の前に控えた今、武義高校写真部に入部して本当に良かったと思っています。「なんとなく写真が好きだから」という理由で入部しましたが、数々の貴重な経験を積む中で、撮影技術の向上のみならず、人間的にも大きく成長することができました。入部当初は好きな物や綺麗な景色、偶然その場にあったものを撮っていました。しかし、先輩方の写真は偶然や奇跡の一枚などではなく、構図や被写体の表情、光量等を自らイメージし、一瞬を切り取るために十分な準備をしてから撮影に臨んでいることが分かりました。さらに、数百枚の撮影データから自分が意図する一枚を厳選し、タイトルを与え、作品に命を吹き込んでいました。その



トビールファンも増えておりこれを励みとして今後も継続してよい品質の美味しいものを続けてまいります。年間ノルマは最低製造販売六千リットル以上という量を製造販売し続けていかなければならず、まだ観光客が少ない美濃でもその量を達成していくにはとても高いハードルです。今後は全国各地のビアフェスにも出向き美濃産クラフトビールでこの町が元気で楽しい郷土になるよう挑戦を続けていきたいと思っています。

在校生の活躍

サッカー部 山田 広貴 私たちサッカー部は、専門分野とは違う競技であるフットサルの県大会を勝ち抜いて東海大会に出場しました。はじめ、このフットサルの大会への参加は、「先輩も参加していたし、自分たちも参加するか」というところから始まりました。全員フットサルの経験があるわけでもなく、ルールを知っている人もほとんどいない状態でした。ポジションニングも戦術もサッカーとはまるで違い、何もわかりませんでした。そのため、「これでは、東海大会いけないな」

というような雰囲気ですが部内に流れていました。しかし、顧問の先生のもと全員でルールを覚え、ミニゲームを繰り返し、最低限のポジションングと戦術を頭と体に叩き込みました。そのトレーニングを重ねる中で、うまくいくことが増えていきました。そのおかげで、部内の雰囲気も「負けそう」から「勝ちたい」という前向きな雰囲気に変わっていきました。

悔しい思いはあったけれど、このような大きな大会にこのチームで出ることができたのは、協力をさせて頂いた顧問の先生と、チームメイト、応援してくれた人たちのおかげです。高校生での最高の経験と思い出ができました。「がんばれ!!」と声をかけてくれた仲間、ほかに私たちに支えてくださったすべての人に感謝したいです。高校最後に最高の経験、思い出ができました。

私は武義高校に入学したばかりの頃は部活動に入部するつもりはありませんでしたが、その時の担任の先生から「理系の大学に行きたいならきつと役に立つよ」と言われ、科学部に入部しました。科学部では、いくつかのグループに分かれて研究をして、それを論文にまとめ、発表するという活動をしていました。私は生き物が大好きなので、一年生の時はザリガニの体色についての研究をしました。パソコン操作に慣れていなかったのですが、論文やプレゼンの作成にすぐ時間がかかりましたが、同じグループになった仲間と役割分担して完成しました。初めての研究発表では、他校のレベルの高さに圧倒されました。分かりやすいプレゼン資料や論文、発表を実際に見て聞いて、その

主な部活動表彰

- 陸上部 岐阜県高等学校総合体育大会 女子やり投 三位 (東海大会出場)
岐阜県陸上競技選手権大会 女子やり投 二位・七位 (東海大会出場)
岐阜県春季陸上記録会 男子やり投 二位・三位 女子やり投 優勝・二位
中濃地区高等学校総合体育大会 男子一〇〇MH 三位 男子四〇〇MH 三位 男子やり投 三位 女子やり投 優勝
岐阜県秋季陸上記録会 男子やり投 五位 女子やり投 優勝・四位 (東海大会出場)
岐阜県高等学校新人対校選手権大会 男子やり投 四位 女子やり投 四位 (東海大会出場)
東海高校新人陸上競技選手権大会 女子やり投 四位 (東海大会出場)
サッカー部 全日本フットサル選手権岐阜県大会 準優勝 (東海大会出場)

弓道部

- 岐阜県高等学校総合体育大会 中濃地区予選 個人 優勝・二位・三位 女子団体 優勝・三位
全国高校弓道選抜大会中濃地区予選 個人 二位 女子団体 二位
写真部 岐阜県高等学校写真選手権大会 団体 最優秀賞 奨励賞 個人 奨励賞
全国高等学校総合文化祭 プレ撮影会フォトコンテスト 個人 最優秀賞 優秀賞
科学部 全国高等学校総合文化祭 (かしま総文) 出場
岐阜県児童生徒科学作品展 入選
全国高等学校総合文化祭 プレ大会 化学部門 優秀賞 (次年度きふ総文出場)
東海地区理科研究発表会 審査委員特別賞
商業部 岐阜県高等学校商業実務競技大会 ワープロの部 個人正確賞

同窓会総会での講演



同窓会総会での講演 深和 英生 (高38回)

武義高を卒業し東京へ進学、大学生の時に英国オックスフォードに二カ月程滞在をしました。私はそこで人々が交流する英国の「PUB」文化に触れることとなりました。学生や社会人、大学の先生も授業が終わると近くのパブへ行

きパイントグラスに注がれるそれほど冷えていないのに麦芽が香るなんとも美味しいビールで店内は楽しそうな会話で盛り上がり賑わっていました。その町だけでも当時四十軒以上のパブがあちこちにあり特徴のあるビールを提供し町の社交場としてこんな素敵な文化が英国にはあると知りました。欧州はビールの歴史も古く紀元前三千年にまでさかのぼります。日本はビールが来てまだ百五十年ほどと歴史は浅く、第一次の地ビールブームからまだ三十年ほどです。いま全国各地では第二次クラフトビールブームが到来しつつあり地域の特性を生かしたビールに注目が集まっています。

ここ美濃で私が地産ビールを造りたい。ご当地で飲んだら美味しいというビールを提供して観光客や地元でも愛されるビールと文化を発信したいと思うようになりました。コロナ禍直前の二〇一九年にあることがきっかけでこの構想を練り約四年かかりましたが昨年ようやくクラフトビール醸造の免許が下りました。現在、妻が醸造の責任者となり醸造をはじめ一年が経ちますが、エール系を中心に美濃の名水とモルト、酵母と各種ホップの量を微妙に調整し、現在十種類以上のクラフトビールを製造しています。弊社クラフ

自信を持てるようになりました。内面的にも成長する機会をくださった顧問の先生や、支えてくれた仲間感謝の気持ちでいっぱいです。

科学部 鶴 飼 菜名 私は武義高校に入部するつもりはありませんでしたが、その時の担任の先生から「理系の大学に行きたいならきつと役に立つよ」と言われ、科学部に入部しました。科学部では、いくつかのグループに分かれて研究をして、それを論文にまとめ、発表するという活動をしていました。私は生き物が大好きなので、一年生の時はザリガニの体色についての研究をしました。パソコン操作に慣れていなかったのですが、論文やプレゼンの作成にすぐ時間がかかりましたが、同じグループになった仲間と役割分担して完成しました。初めての研究発表では、他校のレベルの高さに圧倒されました。分かりやすいプレゼン資料や論文、発表を実際に見て聞いて、その